

上斜里村報

発行所
北海道斜里村役場
電話(代表)16番
編集発行人 庶務係

開基五十五年を迎えて 開村十周年を

先人の意志をうけつぎ 郷土の進展に邁進せん

上斜里村長 中 村 彌 一

幾多変遷の歴史を重ね茲に開基五十五年として開村十周年の記念式を迎える事となりました。これは、村民としてこの上もない喜びであり村をして今日あらしめられた、ゆまざる努力の功のあつた事を忍び其の功績に對し深い感謝の意を捧げる次第であります。この

とこであります。未開草叢の原始境から今日に於ける繁榮に到るに至りたるの苦節苦斗は察するに余りあるを覚ゆるのであります。こうした努力は到底我々の及ぶところではないのであります。この際、この際、この際、これを規範として一個の利害に偏することなく良き村たらしめこれを次代に繼承せねばならぬのであります。その責任は重大大であります。云はなければなりません。幸い昭和十八年一村として孤々の声をあげた我村は村民各位の協力によりて



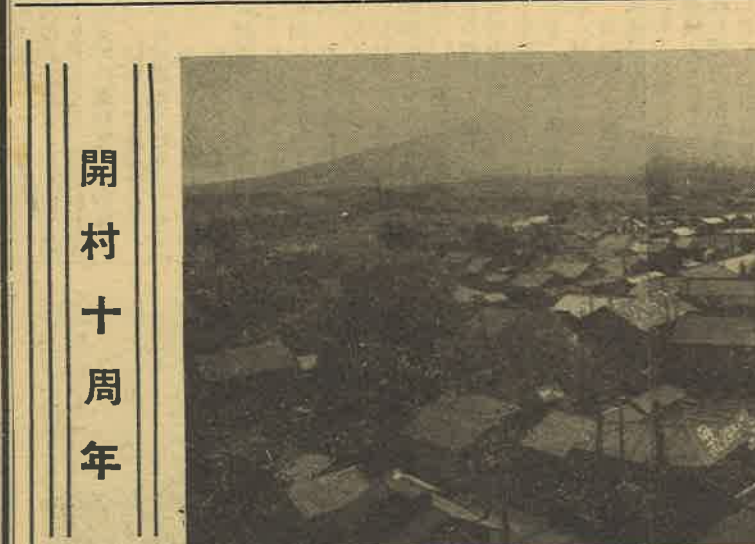
意味に於て記念式に當つては村民あげて村の前途を祝すると同時に先人先覚者の功勞を讃え且つその心を心として更に自治への意欲を昂めて一層郷土の進展を邁進するの覚悟を新にせねばならぬと信じます。願わば本村の開基は明治三十二年殖民地設置解除のあつた事に始まりその後逐次開拓者の來住を加えて明治末期には戸數九二戸を數ふるに至りまた大正年間には先急激な定住者の増加を示し大正四年四月長役場の廃止と共に二級町村制が施されて斜里村の管轄となり其の後昭和十八年には斜里及小清水兩町村より分割して一級町村制の実施の運びとなり今や人口一万八千戸數一千八百五十餘戸を算し面積四〇五平方軒(香川縣の四分の一)を擁し益々発展の過程を辿りつつあります。このは洵に堪びに堪えない

苦難にみちた五十年の道の道を辿り茲に開基五十五年開村十周年を迎えた事に於て衷心より御慶びを申し上げます。本村が今日のよるな発展を見ました事は先覚者諸氏のたゆまざる努力と諸官廳諸氏の指導と郷土発展のため日夜献身された先妻各位のたまものであります。あらためて其の御勞苦に對し心より感謝申し上げる次第であります。我が村は分村後十年であり管内から見ましても新村であります。終戦後長足の進展を見ましたが、今後今後共何分の御指導を御願致します。

開基五十五年を迎えて 開村十周年を

勤行の和合で理想郷建設

上斜里村議會議長 近藤 幹 雄



祝 開基五十五年

開村十周年

開基55周年 祝 開村10周年

▲上斜里村役場

村長 中村 彌一
助役 法泉 室一
収入役 大久保 弘一

▼上斜里村議會

議長 近藤 幹雄
副議長 田高田 安吉

▲上斜里村教育委員會

委員長 渡邊 武
副委員長 辻 稔
委員 隱岐 儀藏
輪島 文太郎

▲上斜里村選舉管理委員會

委員長 上野 眞月
委員 田中 恭三郎
堀田 重利
若松 秋雄

▲上斜里村農業委員會

會長 近藤 幹雄
副會長 山田 茂藏

▲上斜里村公平委員會

委員長 高島 豊次郎
委員 長尾 佐五郎
增子 禎一

▲固定資産評價審查委員會

委員長 森原 長太郎
委員 中西 源次

▲記念祝賀協賛會

會長 近藤 幹雄
副會長 田高田 安吉
委員 野口 義太郎
渡邊 市治
山井 辰藏
泉井 正景
吉井 文太郎
加藤 金助
石井 照吉
佐藤 和實
吉藤 正景
石井 惣太郎

斜里岳を仰ぐ四十余年

神 威 前 中 庄 太 郎

私の出生地は兵庫縣川辺郡で、農家の三男坊として生れた。三十才の時悠大な北海道に憧景をいだき、幸い札幌の

へ行けば土地があると聞いて、斜里へ来てウエンベツ(今の神威部落)へ入地した。時に明治四十年四月十日、その頃のウエンベツの神威八幡宮である。

次いで大正二年四月斜里村戸長(現在の町村長のよりな役)和知金次郎氏より教授場設置の許可あり、近隣の何処よりも早く教授場が出来た、當時の児童数は

十七名で教師は深川から十七才になる田中先生を月十



円で頼んで来た。當時は上斜里とか神威、鶴の巢などと云う名稱がなく斜里村戸長和知氏が焼酎一ダース持つて部落に来て一同に御馳走された上、ウエンベツと云う漠然たる名稱を「神威」と改名され更に教授場を尋常小学校になるように運動してやると云う有難い言葉まで下さつたのが、たしか大正六年四月だつたと思う。

大正七年に小清水小学校長中野松太郎氏を校長として迎え、塚本氏に土地一町二反を寄附して貰つて神威小学校を建築した、後に札幌小学校と合併した爲に移轉したが、丁度今の神威会館のあたりである。

其の後小清水村の分村、鉄道等の困難な問題も一同の努力で解決され、今日の発展を見たわけであり、往時を偲ぶとき隔世の感が致します(村史資料、前中氏懐古傳より)

孟軻曰人之有德慧術知者恒存乎疾疾獨孤臣孽子其操心也危其慮也深故達吾前仲庄太郎君爲我嫂之弟以俱是雙子恒相親誼切矣其後我出而先師於浪速君亦遠去遊於北海不相聞知十年我承師之後求遊東都奉職序序又不相聞知今也我恆亦遊于北海在君膝下具報君宿志有威我敢雖不知所措爲憶君本業生於兵庫縣川邊郡六軒村守柏原僻地地圖鬱鬱不潔既歸土早身出關也人誰知君懷我獨記君前途而不相聞者以有所相也開初君之赴北海也千辛萬苦卜居於北見國斜里郡斜里村守神威樹起土開草蓋關無無難理數百頃同志日聚居年加勢學原野成邑成郡君先排衆論建神莊起學校遂成既固矣前途猶有洋々焉嗚呼真也哉軻言不欺我宜銘以垂後昆謹曰

前中庄太郎氏が東都、野間顯緝先生から贈られた頌詩

酒屋に叔父が居たので、大きな夢を抱いて渡道した。酒屋の手傳を二年程やつていたが北見方面へ行けば土地がいくらもあると聞いて、農業で身を立てるべく札幌からいとも怪しげな汽車に乗り陸別迄来たが、こゝが終點であつたので、馬車に乗りつたり歩いた



寫眞は役場廳舎の全景



斜里川の清流より斜里岳を望む

十周年のよき日に 功勞者表彰

今日の上斜里村発展の基礎をつくられた左の功勞者に表彰状及び感謝状が贈られます。

- ◎自治功勞者
 - 近藤幹雄 田高田安吉 渡辺武 泉井辰治 服部一雄 高橋慶吉 吉倉要太郎 服部光藏 飯沼彌八 野口義郎 田中泰三郎 佐々木長明 野村照吉 川村幸助 野村鉄雄 吉田榮吉 渡辺要 山本勇治 国松一敏 上野眞月 大谷傳三郎 安達石太郎 本庄一男 北橋大田仁太郎 黒田正記 島田定一 浅野今朝雄 大田富三郎 武藤儀治 町野政雄 石井勇 三好常次郎 家村克行 大久保弘一 松田彌兵衛
- ◎産業功勞者
 - 山田正元 山中市藏 石井惣太郎 隠岐儀八 大石兼記 森兵衛 関口峯二 町多吉 前中庄太郎 田中清次郎 森本源治 中西次 桑島義明 関山松次郎 村尾次二 山田興作 中村綱吉 上本卯作 飯田賢治 西部榮太郎
- ◎衛生功勞者
 - 山田一
- ◎社会功勞者
 - 美馬照玄 辻稔 魚谷林二
- ◎教育功勞者
 - 塚本伊勢太 堀内竹吉 山本麟太郎 西森清 森良雄
- ◎篤行者(節婦)
 - 伊藤みつ 成戸キ 秋子 平井キミノ 菅原マツ 山田小春

村税収入状況 (八月末現在)

村税収入の状況は左の通りとなっております。

◎村民税	調定額 三二九千円
収入額 一八四三千円	
収入歩合 五九%	
◎固定資産税	調定額 四〇六三千円
収入額 二二二二千円	
収入歩合 五七%	
◎自動車税	調定額 一六八千円
収入額 一一二千円	
収入歩合 七八%	
◎荷車税	調定額 三一一千円
収入額 二〇六千円	
収入歩合 六六%	
◎木材引取税	調定額 一一〇二千円
収入額 八八四千円	
収入歩合 七三%	

青空に熱球とぶ

上斜里村体育協会主催による職場対抗の野球大会が、八月十五、十六日の二日間上斜里小、中グラウンドに於て行われた。

各職場の若人八チーム、百余名が参加し、野球を通じてその親睦を計り、炎暑の下スポーツマンシップに則り終始正々堂々と優勝杯争奪に戦い、野球ファンの熱狂させた。成績次の通り社会長より優勝杯は役場チームに授與された。

体育協会の成長と、大家スポーツの振興を切に期待する。

一回戦	農協3 --- 10 高校
準決勝	役場11 --- 0 実業
官行13 --- 4 鉄道	
日織1 札幌(棄権)	
役場6 --- 4 高校	
日織3 --- 2 官行	
決勝	役場6 --- 4 日織

伝染病のない村 明るい村

清潔で明るい環境を

つくりましょう

豫防に勝る治療なし